



アプリ開発教育を通じた人材育成

学校教育におけるICT化の推進



ICTの進化は日進月歩で、これからもその重要性はますます高まっていくものと思われます。特に、次世代を担う子どもたちにとっては、できるだけ早くICTに慣れ親しんでもらうことが重要です。

「かのやICT教育推進事業」

市では、平成26年度から、教育のICT化を計画的に推進する「かのやICT教育推進事業」を実施しています。

鶴峰小学校をモデル校に指定し、平成26・27年度の2年間で、授業で使用する電子黒板やタブレットなどのICT機器を整備しました。また、ICT教育を効果的に推進するために、ICT支援員を配置しました。平成29年度は鹿屋女子高校に、平成29年度から平成31年度

までの3年間に、市内すべての小・中学校にICT機器を整備する予定です。

事業の成果

先行的に導入した鶴峰小学校で調査を行った結果、80%以上の児童が、「学習意欲の高まりや授業内容の分かりやすさを感じる」との結果が出ています。

また、「ICT機器の活用により、児童自らの主体的な表現活動が増え、自信を持って自分の考えや思いを的確に表現できるようになった」という声も、事業の成果と言えます。

一方、教職員からも、「ICT機器が導入されたことにより、「教師のICT活用能力が向上し、新たな教材開発につながった」、「効率よく授業が展開されるようになった」という声が聞かれ、授業内容などが改善されたことが分かります。

学校で楽しく学ぶ ICT

期待される効果

○ロボットを作動させるアプリの開発を通じて、次の4つの学習効果が期待されます。

- コミュニケーションロボット本体及びプログラム開発の操作・開発技術の習得
- 即戦力として対応できる情報活用能力の習得
- グループでアプリを開発することによる協調性・主体性の向上
- 情報を組み合わせる新しいものを作り出すことによる、思考力・想像力・表現力の育成

また、将来的には次のようなことが期待されます。

- ICT化時代に対応した人材育成
- 地域内のICT技術の向上
- アプリ開発事業者など、ICT事業者の市内への誘致(立地)や地元での新たな雇用の創出



▲電子黒板を活用した授業 (鶴峰小学校)

「鹿屋市教育の情報化ビジョン」

ICTを活用した教育は、これからの学校教育の大きな柱の一つです。今後、平成28年度に定めた「鹿屋市教育の情報化ビジョン」に基づき、次の3つの視点から、学校教育におけるICT化を推進します。

3つの視点

- 機器の活用による分かりやすい授業や指導方法の改善
- 情報及び技能を活用する能力や情報モラルを身につける情報教育の推進
- 校務の効率化



▲2月に開催された「高校生ロボットアプリ発表会」

平成28年度から実施しているこの事業で、ロボットアプリ授業を受けた高校生が市内のICT企業に就職するなど、少しずつ効果が現れています。

今後、教育現場におけるICT技術の導入とICT教育の充実を推進します。



▲「動かないpepperを、私たちのアプリで動かすんだ。」緊張した表情でのぞきこむ

REPORT

平成28年度のアプリ開発人材育成事業で、実際にアプリを開発した生徒たちは、「動作の設定や話す言葉を細かく自分で操作できることが、大変面白いと思いました」、「簡単に動かすことに感動しました。いろいろ想像が膨らみました」などの感想を語りました。また、講師は「本格的な開発にはより高度な技術が必要ですが、この経験がいろいろな成果につながり、更に意欲がわき、技術的・人間的にも成長していくと思う」と話しています。写真は、平成29年度に鹿屋女子高校でアプリ開発授業を受ける6人。先輩に続けと、一生懸命取り組んでいます。



REPORT

鶴峰小学校では、教育のICT化をより効果的なものにするため、授業前に朝の活動で「ICTタイム」を実施しています。この日は、3・4年生15人が、算数を学習しました。熱心に問題を解いたり、時には笑顔でお互いに教え合う姿も。学習を見守り指導する先生たちの表情も真剣そのもの。終了後に、児童の皆さんに感想を聞いたところ、「タブレットの使い方は、最初は難しかったけどすぐに覚えた。今はとても簡単」という声が多かったほか、「タブレットを使った授業の方が楽しい」と、全員が答えました。技術習得と学習意欲向上の一環として、学校教育のICT化が有効であることが分かります。